

# 2022 平和行動 in 沖縄

## 「～語り継ぐ戦争の実相と運動の継承で 恒久平和の実現を～」

6月23日～24日、連合岐阜は連合三重と合同で、「連合2022平和行動 in 沖縄」に参加しました。2019年以來3年振りに現地・沖縄県で開催しました。参加者は全国から約650名。連合三重・連合岐阜合同で参加しました。（連合三重8名、岐阜3名の参加）

### 【1日目】

中部国際に集合し、お互いに初めて会う方が多い中、連合三重の伊藤団長のあいさつ、竹原事務局の説明後、沖縄へ向かいました。

那覇空港に着いて最初に感じたのは、「人が多いこと」「夏本番の日差しが射し、暑く肌に刺すような痛みがあること」でした。

### <ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館>



（説明するガイドさんの目には涙がありました）

ひめゆりの塔は、1945年の沖縄戦で亡くなった沖縄師範学校女子部・沖縄県立第一高等女学校の生徒や教師の慰霊碑です。ひめゆり平和祈念資料館は、1989年6月23日ひめゆり同窓会によって設立されました。当日、23日は「慰霊の日」で多くの方が手を合わせてみえました。

### <連合「2022 平和オキナワ集会」>

#### 第1部 基調講演

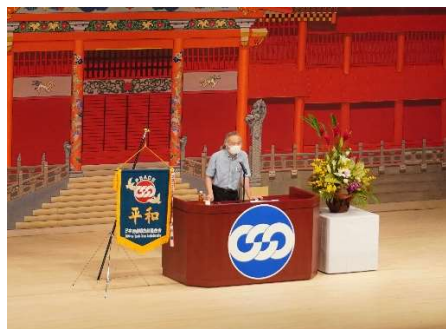
テーマ：「沖縄の施政権返還50年と日米地位協定

講師：明田川融 法政大学法学部政治学科教授

日米行政協定より始まった日米地位協定の歴史的経緯に関する説明。次に事例を含めた詳細な説

明や、NATO 諸国での対応との比較についても紹介がありました。

また、今後に向けた取り組みとして、在日米軍基地問題を抱える地域間での横の連携や情報共有を進めることが重要との指摘がありました。最後に、連合に対する期待・要望が述べられました。



(明田川 融・法政大学教授)

## 第2部 平和式典

- (1) 主催者あいさつ・・・芳野友子(連合会長)
- (2) 地元歓迎あいさつ・・・東盛政行(連合沖縄会長)
- (3) 来賓あいさつ・・・玉城デニー(沖縄県知事)
- (4) 来賓紹介・・・沖縄県選国会議員
- (5) 平和メッセージ・・・千葉利裕(連合北海道副会長)
- (6) ピースリレー・・・大野真人(連合広島会長)
- (7) 平和アピール・・・堀川 恵(連合沖縄女性員会幹事)

冒頭、参加者全員で黙祷を行ないました。芳野会長あいさつでは、「平和で安心な社会は、私たちが暮らし、働く上で絶対欠かすことができない。」「日米地位協定は、沖縄だけの問題でなく、日本全体の問題」「世界の恒久平和の実現に向けて、平和運動を一緒に広げていきましょう」と述べました。

次に、東盛正行・沖縄県会長から「今年は戦後77年、沖縄の本土復帰50年という節目の年」「今もなお、国土面積0.6%の沖縄県に米軍専用施設の70%がある」「米軍人・軍属による事件・事故や辺野古新基地の建設など、今も不条理が続いている」「ウクライナへの軍事進攻の早期終結、人類普遍の願いである恒久平和と『命どう宝』を全国の皆さんとともに希求すること」と述べられました。



(芳野 友子・連合会長)



(東盛 正行・沖縄県会長)

続いて、玉城デニー・沖縄県知事より「沖縄県として、日米両政府に対し、過重な基地負担の軽減・普天間飛行場の県外移設、日米地位協定の抜本的な見直しを強く求める」「基地返還が基地従業員の雇用不安や労働条件の低下につながることはないよう、日本政府に働きかけていきます」「戦争の不条理さや残酷さを体験した沖縄だからこそ、平和を希求する沖縄のこころ『チムグクル』を世界に発信し、共有することを呼びかけます」「沖縄県の先人たちが積み上げてきた、平和に対する努力の成果を次世代にしっかりとつなげ、誰一人取り残すことのない平和で誇りある沖縄の実現のために頑張っまいます」と来賓のあいさつがあり、その後沖縄県選出国會議員の来賓紹介がありました。



(玉城 デニー・沖縄県知事)



(千葉 利裕・連合北海道副会長)

次いで、沖縄の前に平和4行動を開催した北海道を代表して千葉利裕・連合北海道副会長より平和メッセージが述べられた後、東盛正行・連合沖縄会長から大野真人・連合広島会長へと平和の旗（ピースフラッグ）が手渡され、次に平和4行動を開催する広島を代表して大野連合広島会長より平和運動に向けて決意が述べられました。



(ピースフラッグのリレー)



(大野 真人・連合広島会長)

最後に、堀川恵・連合沖縄女性委員会幹事から平和アピール（案）を読み上げ、満場一致で採択し、集会を終了しました



(堀川 恵・連合沖縄女性員会幹事)



(連合岐阜からの参加者)

## 【2日目】

米軍基地や沖縄戦の戦跡をピースアクションチームの方々から説明を受けながら周りまわりました。連合岐阜・連合三重はAコースに参加しました。連合岡山、連合和歌山から参加された方も同じバスでした。

### <ピースフィールドワーク>

#### Aコース（基地コース）

辺野古キャンプシュワブ～嘉手納基地～チビチリガマ～嘉数高台（普天間基地）

#### Bコース（戦跡コース）

嘉数高台（普天間基地）～旧海軍司令部豪～ひめゆりも塔/資料館～平和祈念公園/  
資料館～魂魄の塔

#### Cコース（戦跡コース）

糸数アブチラガマ～魂魄の塔～平和祈念公園/資料館～ひめゆりの塔/資料館

### <辺野古キャンプシュワブ>

キャンプシュワブは、東側海岸地域の「キャンプ地区」と久志岳を中心とする山岳・森林地区の「シュワブ訓練地区」からなる。同施設では、実弾射撃訓練や水陸両用訓練が実施されており、訓練に伴う原野火災等の事故も発生している。

辺野古は普天間飛行場の返還に伴う代替海上施設案が検討され、キャンプシュワブ水域がその移転先に決定された。

現在、滑走路を造るため埋め立て工事が進行中です。世界的にも貴重な亜熱帯島嶼（とうしょ）域の豊かな海と森がある。この海域では、絶滅危惧種 262 種を含む 5,800 種以上の生物が確認されている。また、「国際保護獣＝ジュゴン」が生息している。綺麗な海が埋め立てられ基地・滑走路になるのは耐え難い思いです。地上では座り込み、海上ではカヌーによる反対運動も実施される。



(辺野古キャンプシュワブ)



(連合三重との合同写真)

### <嘉手納基地>

4,000m級の滑走路を2本持ち、大型爆撃機が離発着できる滑走路である。極東で最大かつ最も活発な米軍基地である。この施設は、防空、反撃、空輸、支援、偵察、機体整備の総合的な場所となり、現在は、陸軍、海軍、空軍、海兵隊、四軍全部の任務を支援している。当日は、戦闘機の訓練が繰り返し実施されていた。説明の音が聞こえないほど騒音がひどかった。



(訓練中のF-15 イーグル戦闘機)



(KC-135 空中給油機)

### <チビチリガマ>

ガマとは、沖縄の方言で、洞窟やくぼみをいう。沖縄本土はほとんどが隆起珊瑚礁で形成されている。数十万年という長い年月をかけ、雨がサンゴ石灰岩を浸食、自然の洞窟ができた。

チビチリガマは、谷底にかくれた小さな袋状の避難豪。1945年4月1日に沖縄戦で米軍が沖縄本島西海岸に上陸した際、豪に住民140人が避難した。翌2日に家族同士が手をかけるなどして83人が集団自決（集団死）した。犠牲者の6割が18歳以下で、今も遺骨が眠る。

2017年9月チビチリガマが荒らされた。ガマ内部にあった遺品の瓶が割られ、千羽鶴が引きちぎられた。逮捕された少年たちは、「(ガマの歴史は)ほとんど知らなかった」と供述。遺族会会長が「沖縄の子供たちだと知り、余計にショックを受けた」と述べられた。戦争経験者が高齢化になり若い世代に受け継がれていない一面があった。学校教育の中でしっかりと受け継いでいかなければならないと感じた。



(チビチリガマ入口)



(入口横にある「平和の像」)

### <嘉数高台（普天間基地）>

嘉数高台周辺では、沖縄戦で最大の激戦地となった。米軍がその攻略に 16 日間を要した。この「嘉数高地の防衛戦闘」は現在の陸上自衛においても、「反斜面陣地」や「形状障害と火力の指向」「相互支援」など幹部に対する防御戦闘の規範として教育されている。米軍側の記録においても、沖縄戦の最大の危機とされている。

現在、嘉数高地は「嘉数高台公園」として整備され、沖縄戦の戦場が次々とその姿を失っている中で貴重な戦跡である。高台頂上の地球を模した展望台からは普天間飛行場が一望でき、基地の立地状況や航空機の運用状況が把握できる。普天間基地には、MV22オスプレイが22機配備されている。オスプレイは、ヘリコプターとプロペラ機を合わせたような航空機。



(説明するピースガイドさん)



(高台から見える普天間基地)

### <事務局>

この2日間を通じて、平和について今一度考える機会を得た。戦争経験者が高齢化していく中で、戦争経験のない私達が、日本の歴史を伝え平和を訴えなければならない。

ロシアのウクライナ侵攻により戦争状態であるのは非常に残念。一日も速く終息することを願う。ひとりひとりの力は微力だが、運動することにより大きなうねりなる。連合の平和行動の意義は大きい。これからも参加者を募り継続的に実施する。

皆さんも、今一度家族・友人等で戦争や平和について、考えたり話をしたりして下さい。連合の平和行動の参加もお待ちしております。